



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○	○						
情報活用 I	1	○			○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する(「AI・データサイエンスの扉」第1回)</li> <li>・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、Society 5.0、データ駆動型社会(「AI・データサイエンスの扉」第1回)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI・データ利活用の最新動向を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第6回)</li> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(「AI・データサイエンスの扉」第6回)</li> <li>・ニューラルネットワークと深層学習(「AI・データサイエンスの扉」第6回)</li> <li>・画像認識に使用されるCNNとGAN(「AI・データサイエンスの扉」第6回)</li> <li>・複数のデジタル技術の組み合わせによる取り組み(「AI・データサイエンスの扉」第7回)</li> </ul>
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲にわたっており、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する(「AI・データサイエンスの扉」第2回)</li> <li>・代表的なデータの分類(量的データ、質的データ、フローデータ、ストックデータ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回)</li> <li>・データとその取得方法(IoT、センサー、オープンデータ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回)</li> <li>・1次データ、2次データ、3次データ(「AI・データサイエンスの扉」第2回)</li> <li>・ビッグデータの種類(構造化データ、非構造化データ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(「AI・データサイエンスの扉」第3回)</li> <li>・Society5.0社会で実現する技術(医療分野、交通分野、食品分野、エネルギー分野、防災分野)(「AI・データサイエンスの扉」第1回)</li> <li>・企業におけるAI・データの利活用事例(「AI・データサイエンスの扉」第3回)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第4回)</li> <li>・AI・データ活用のための技術(統計的手法、機械学習)(「AI・データサイエンスの扉」第4回)</li> <li>・非構造化データ(音声・テキスト)の処理(「AI・データサイエンスの扉」第4回)</li> <li>・非構造化データ(画像・動画)の処理(「AI・データサイエンスの扉」第4回)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第5回)</li> <li>・データサイエンスのサイクル(PPDACサイクルとマーケティング)(「AI・データサイエンスの扉」第5回)</li> <li>・AI・データ利活用の事例(スポーツ、物流、マーケティング)(「AI・データサイエンスの扉」第5回)</li> </ul>

<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>3-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI・データを活用する際の負の側面について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第12回)</li> <li>・GDPR(General Data Protection Regulation)(「AI・データサイエンスの扉」第12回)</li> <li>・ELSI(Ethical、Legal and Social Issues)(「AI・データサイエンスの扉」第12回)</li> <li>・データ倫理、AIの倫理指針(「AI・データサイエンスの扉」第12回)</li> <li>・AI・データサイエンスの倫理(「AI・データサイエンスの扉」第12回)</li> <li>・情報の盗用、ねつ造・改ざん(「AI・データサイエンスの扉」第13回)</li> <li>・プライバシー保護(「AI・データサイエンスの扉」第13回)</li> <li>・情報セキュリティとモラル(「情報活用 I」第1回)</li> </ul>
	<p>3-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報のCIA等について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第13回)</li> <li>・情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)(「AI・データサイエンスの扉」第13回、「情報活用 I」第1回)</li> <li>・ハッキング、不正アクセス(「AI・データサイエンスの扉」第13回)</li> <li>・コンピュータウイルス(「AI・データサイエンスの扉」第13回)</li> <li>・個人情報保護法、匿名加工情報(「AI・データサイエンスの扉」第13回)</li> <li>・認証の三要素(「AI・データサイエンスの扉」第14回)</li> <li>・暗号化(共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式)(「AI・データサイエンスの扉」第14回)</li> <li>・情報セキュリティとモラル(「情報活用 I」第2回)</li> </ul>
<p>(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの</p>	<p>2-1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類を知り、連続データ、離散データ、量的データ、質的データについて学習する(「AI・データサイエンスの扉」第8回)</li> <li>・データに含まれる誤差の取り扱い、統計情報の正しい理解について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第8回)</li> <li>・回帰、相関、因果(「AI・データサイエンスの扉」第8回)</li> <li>・母集団と標本(「AI・データサイエンスの扉」第8回)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(「AI・データサイエンスの扉」第9回)</li> <li>・データのばらつき(分散、標準偏差、変動係数)(「AI・データサイエンスの扉」第9回)</li> <li>・5数要約と箱ひげ図(「AI・データサイエンスの扉」第9回)</li> </ul>
	<p>2-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの表現方法、不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・データの信頼性(「AI・データサイエンスの扉」第10回)</li> <li>・記述統計と推測統計(「AI・データサイエンスの扉」第10回)</li> <li>・統計データの抽出方法(単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出)(「AI・データサイエンスの扉」第10回)</li> <li>・二つの質的データの関係(独立性検定、カイ2乗検定)(「AI・データサイエンスの扉」第10回)</li> </ul>
	<p>2-3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・データの集計(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・データの並び替え、ランキング(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・質的データの図表表現(名義尺度、順序尺度)(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・量的データの図表表現(間隔尺度、比例尺度)(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・不適切なデータの表現(「AI・データサイエンスの扉」第11回)</li> <li>・データの取り扱い(txt形式、csv形式)に関する演習(「情報活用 I」第13回)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

- ・AIやデータサイエンスの社会的役割とその活用について具体例を示して説明することができる。
- ・AIおよびデータを利活用する際に求められるモラルや倫理観を向上することができる。
- ・簡易なデータについてはデータを統計的に集計、可視化することができる。



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報活用 I	1	○		○	○						
情報活用 II (含医療情報の統計学)	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会の概要(Society 5.0、ビッグデータ、AI、IoT) (「情報活用 I」第1回)</li> <li>社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> </ul>
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI最新技術の活用例(ディープラーニング、強化学習) (「情報活用 I」第1回)</li> <li>医療・看護分野におけるAI活用事例(「情報活用 I」第1回)</li> </ul>
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康に関する統計(1次データ、2次データ、データのメタ化) (「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> <li>医療・看護分野における調査・実験データ(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> </ul>
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ・AI活用領域の広がり(医療・看護分野での活用事例) (「情報活用 I」第1回)</li> <li>医療・看護分野におけるデータの活用(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ可視化 (「情報活用 I」第12回)</li> <li>非構造化データ処理(動画処理) (「情報活用 I」第14回)</li> <li>AI・データ活用のための技術(統計的手法、機械学習) (「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> </ul>
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・看護分野におけるデータ・AI活用事例紹介(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> <li>データサイエンスのサイクル(データ解析と推論、結果の共有、課題解決に向けた提案) (「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第14回)</li> </ul>

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ELSI(Ethical、 Legal and Social Issues) (「情報活用 I」第2回)</li> <li>・AIの倫理指針(「情報活用 I」第2回)</li> <li>・AI・データサイエンスの倫理(「情報活用 I」第2回)</li> <li>・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(「情報活用 I」第2回)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)(「情報活用 I」第2回)</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(「情報活用 I」第2回)</li> </ul>
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計データの種類(連続、離散、量的、質的)(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)</li> <li>・データの特徴(度数分布)(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第3回)</li> <li>・データのばらつき(分散、標準偏差、変動係数)(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第4回)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第5回)</li> <li>・箱ひげ図(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第5回)</li> <li>・母集団と標本(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第6回)</li> <li>・回帰、相関、因果(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第7回)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、円グラフ)(「情報活用 I」第12回)</li> <li>・不適切なグラフ表現(「情報活用 I」第12回)</li> <li>・基本統計量(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第4回)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの抽出方法(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第2回)</li> <li>・データ解析ツール(Excelの分析ツール)(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第3回、第4回)</li> <li>・データの集計(「情報活用 I」第9回)</li> <li>・データの並び替え(「情報活用 I」第9回)</li> <li>・データの取り扱い(txt形式、csv形式)に関する演習(「情報活用 I」第14回)</li> <li>・Excelを用いたデータの分析(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第7回、第8回)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

- ・AIやデータサイエンスの社会的役割とその活用について具体例を示して説明することができる。
- ・AIおよびデータを利活用する際に求められるモラルや倫理観を向上することができる。
- ・簡易なデータについてはデータを統計的に集計、可視化することができる。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度									令和3年度									令和2年度									令和元年度									平成30年度									平成29年度									履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数																						
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性																							
国際日本学部	811	190	776	3	2	1	3	2	1	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			3	0%																		
建築&芸術学部	837	180	736	15	7	8	14	6	8	0			0			0			0			0			0			0			0			0			15	2%																					
現代社会学部	1,014	220	896	36	25	11	33	23	10	0			0			0			0			0			0			0			0			0			36	4%																					
健康栄養学部	311	80	352	0	0	0	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	0%																					
国際看護学部	330	80	320	85	9	76	83	8	75	0			0			0			0			0			0			0			0			0			85	27%																					
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!																								
合計	3,303	750	3,080	139	43	96	133	39	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139	5%																								

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人
- ② プログラムの授業を教えている教員数  人
- ③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 本学では教育活動において、関係部局及び委員会並びに教職員相互の連携を密にし、もって教育運営事務を効率的に遂行するための施策を協議するため、各種の教育連絡協議会を設置している。その中でコア教育連絡協議会はキャリア教育、語学教育、情報教育などの初年次教育やゼミナールや卒業研究など大学教育のコアとなる学びについて、教育の質の向上に向けた改善・進化を推進することを目的として活動している。

- ⑦ 具体的な構成員  
 (令和4年度 コア教育連絡協議会 構成員)
- コア教育連絡協議会議長 准教授 瀬口 昌生  
 教学担当副学長 教授 川口 宏海  
 教務部長 教授 尾崎 耕司  
 コア教育アドバイザー 准教授 瀬口 昌生、教授 坂本 理郎、教授 谷村 要、教授 山口 正晃  
 ゼミナールコーディネーター 准教授 森元 伸枝、准教授 増岡 亮、准教授 海老 良平、准教授 本田 直也  
 卒研コーディネーター 教授 中島 由佳、准教授 西岡 健司、准教授 鈴木 基伸、准教授 和田 淳  
 情報教育コーディネーター 准教授 本田 直也  
 情報活用コーディネーター 准教授 中崎 修一  
 英語教育コーディネーター 教授 尾崎 耕司、准教授 石野 尚、准教授 ジョン・ジャクソン  
 英語コーディネーター 講師 森井 祐介、准教授 ゴードン・カールソン



⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	5%	令和5年度予定	20%	令和6年度予定	50%
令和7年度予定	70%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	3,080

具体的な計画

「情報活用Ⅰ」および国際看護学部の「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」は引き続き必修科目として全学生への100%履修を徹底する。また「AI・データサイエンスの扉」は令和4年度は1年生のみが受講対象となっていたが、年次進行で令和5年度には1・2年生、令和6年度には1～3年生、令和7年度には全学年の学生が履修可能とする計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

1年次春学期配当の「情報活用Ⅰ」は、全学的な卒業必修科目に位置付けられているため、すべての学生が履修する。当該年次に単位修得できなかった一部の学生については、同年の秋学期以降に再履修する。さらにeラーニング形式で実施する「AI・データサイエンスの扉」のデジタル教材については、eラーニング用のデジタル教材を数多く開発してきた本学園の出資会社である株式会社デジタルエデュケーションサポートのインストラクショナルデザイナーらの支援のもと、担当教員とともに質の高いデジタル教材の開発と授業運営を行う体制が整っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学直後に実施しているオリエンテーションや履修ガイダンスでの指導を徹底して実施している。さらに学内ポータルシステムや履修ガイド冊子等を用いて、履修に必要な情報が確認できるようにしている。また、「AI・データサイエンスの扉」は、時間割に縛られることなく、指定した学習期間内であればいつでも学習することができるオンデマンド型のeラーニングで実施し、履修を促している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

さくら夙川キャンパスならびに大阪大手前キャンパスには、学修支援の専門家(チューター)を配置した学修サポートセンターを設置している。学修サポートセンターでは、対面サポートに加え、Zoomなどを用いたオンラインサポートも実施しており、学生ひとりひとりに丁寧なアドバイスを行う環境を整えている。また、eラーニング学習の支援は、両キャンパスに設置しているIT技術者を配置したITサポートデスクにて実施している。さらに情報メディアセンターではICT環境の利活用に関する幅広いサポートを行っており、学内での自習環境や自宅から遠隔で学内情報環境に接続して利用できる環境などを整備し、eラーニングの学習をサポートしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業運営に関するおしらせの掲示や学習教材の提供、課題の提出、教員への質問などについては、ポータル機能と学習管理機能が融合したWEB型の総合学修システム「el-Campus」を用いて実施している。さらに学内メールやチャットシステムのMicrosoft Teamsも整備しており、学生はパソコンやスマートフォンを用いて、自宅などの学内環境からも簡単にこれらのシステムを利用し、学習指導を受けることが可能になっている。

大学等名 大手前大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検・評価委員会

(責任者名) 井澤 幸三

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「情報活用 I」「AI・データサイエンスの扉」は、本学の総合科目として全学部に配置されており、「情報活用 I」は全学必修科目として全員が履修する。また、「AI・データサイエンスの扉」はeラーニング科目として選択科目として配置しており、学部の専門の科目の履修の妨げにならないよう、履修し易く配置している。本学独自の総合学修システム「el-Campus」により、科目ごとの進捗状況等が把握でき、出席管理もおこなっており、芳しくない学生に対しては、注意やアドバイスをを行うことで、ドロップアウトする学生を防止している。
学修成果	本プログラムを履修した学生は、他の科目での活用、例えば演習授業やアクティブラーニング(PBL)授業での応用や、専門科目「卒業研究」「卒業制作」といった授業での統計学的な知識が活用できると思われる。また、正課授業のみならず、課外授業にも応用でき、卒業後のキャリア支援にも有効な働きをもたらすものと思われる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では、春・秋学期により良い授業となるよう、授業改善を目的とし「学生による授業アンケート」を全科目を対象として実施している。本アンケートでは学生の理解度を問う設問もあり、自由記述欄を設定し学生は授業に対しての様々な意見を記載できる。また、教員は学生が記載したことに対してフィードバックを行い、相互において授業への理解度等共有をはかっている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	「学生による授業アンケート」の集計結果は、本学独自の総合学修システム「el-Campus」上で公表し、全学生及び教職員が閲覧することを可能にしてある。本プログラムの授業を履修したことのない学生は、本公開結果を閲覧することにより、授業への理解や興味がそえられることで、履修への刺激となると思われる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「情報活用 I」は、本学の総合科目の中に全学必修科目として配置されているため、履修率は100%となる。また、「AI・データサイエンスの扉」はeラーニング科目として選択科目として配置しており、学部の専門の科目の履修の妨げにならないよう、履修し易く配置している。本プログラムを履修しリテラシーを修得できることを、履修オリエンテーションにてきめ細かく説明し、学生の興味を刺激し履修率の向上につなげていく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラム修了者については、統計スキル等を身につけて就職活動ができることとなり、様々な業界・職種において活用できるものと思われる。また、本プログラムがきっかけとなり、様々な資格取得に興味を持ち、資格の取得が増えることにより、様々な進路先での活用が考えられる。本学主催の業界説明会を開催した際、企業の人事担当者より今後の人材養成として「データサイエンス・AI」等についての重要性をうかがうことが多い。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学独自の制度として「教育ボランティア」制度があり、産業界の方や様々な方に、本学へ登録いただき、学生の授業での様子を参観していただいたり、プレゼンテーションの審査、個別面談(3年生を対象)などを担当いただき、学生の伸長度の可視化を図っており、本プログラムに関してもご意見を拝聴していく予定である。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること	<p>本プログラムにおいては、「情報活用I」については、必修科目となり全員が履修することとなり、その授業の中で、単に「数学嫌い」という、ありがちなイメージと違う角度から興味を抱かせ、選択科目の「AI・データサイエンスの扉」への履修と段階を経て学修の楽しさを認識してもらう。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>「学生による授業アンケート」からの意見やeラーニング科目については学習ログの分析結果を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを実施する予定である。</p>

開講年度	2022	開講学期	秋学期	
科目コード	ZB0083	授業コード	45578	
科目名	AI・データサイエンスの扉（オンデマンド型／月曜日配信）	開講曜日・時限	集中講義	
担当教員名【代表】	伊勢 智彦			
担当教員				
授業形態	講義			
単位数	2単位			
メジャー名	該当メジャーは、入学年度の履修ガイドを確認すること。			

授業の目的  
デジタル社会において、AIやデータサイエンスを日常生活、仕事で使いこなすことができる基礎的知識について学ぶ。学修した知識・技能をもとに自ら適切な判断ができ、各分野においてAIやデータサイエンスの恩恵を享受し、その有用性を説明できるようになることが目標である。

授業の内容

①能力開発メソッド	AI, データサイエンス, データ活用
②課題レポート等	講義中の指示に従って各自で調査を行い、その内容をまとめる
③授業概要	現代社会における我々の生活の変化について、AIとデータサイエンスの観点から、事例を取り上げながら講義する。AI・データサイエンスはSociety5.0社会における汎用技術（GPT（General Purpose Technology））となることを踏まえ、知見を広げることを意識して受講すること。
授業時間外学習	・②の内容の実施 ・シラバスの内容に関する予習

授業計画

	目的	主題	概要	授業時間外学習
01	知識／能力	イントロダクション	授業概要の説明 社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する	データサイエンス、AIの概要に関する調査
02	知識／能力	社会で活用されているAI・データの概要	我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する	身の周りで使用されているAI・データの種類を調査してまとめる
03	知識／能力	AI・データの活用領域	我々の身の周りの様々な領域でデータが活用されていることを学習する	身の周りで使用されているAI・データの活用領域を調査してまとめる
04	知識／能力	AI・データ活用のための技術	我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する	講義中に取り上げたもの以外でのAI・データ利活用の技術を調査してまとめる
05	知識／能力	AI・データ活用の現場	AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する	講義中に取り上げたAI・データ活用の現場をまとめるとともに、他の事例を調査する
06	知識／能力	AI・データ活用の最新動向	AI・データ利活用の最新動向を学習する	講義中に取り上げたAI・データ利活用の最新動向をまとめ、他の事例を調査する
07	知識／能力	前半のまとめ	社会におけるAI・データ利活用についてまとめる	前半の内容を振り返り、内容をまとめる
08	知識／能力	データを読む(1)	データの種類を知り、連続データ、離散データ、量的データ、質的データについて学習する	講義中に取り上げたデータの種類について具体例を調査する
09	知識／能力	データを読む(2)	データに含まれる誤差の取り扱い統計情報の正しい理解について学習する	講義中に取り上げたデータの種類について具体例を調査する
10	知識／能力	データを説明する	データの表現方法、不適切なグラフ表現と優れ	講義中に取り上げたデータ表現方法

	能力		た可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する	について、各自でデータを用いて作成する
11	知識／能力	データを扱う	不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する	講義中に取り上げたデータの取り扱いについて、サンプルデータを用いて作業する
12	知識／能力	AI・データを扱う上での留意事項	AI・データを活用する際の負の側面、GDPR、ELSI等について学習する	AI・データを取り扱う際の留意事項をまとめ、トラブル事例等について調査する
13	知識／能力	データを守る上での留意事項	データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報のCIA等について学習する	AI・データ利活用に関するセキュリティに関してまとめ、事例等を調査する
14	知識／能力	総合演習	AI・データサイエンスに関する総合演習を行い、知見を深める	総合演習の内容をまとめ、必要があれば再提出する
15	知識／能力	AI・データサイエンスに関する総まとめ	これまで学んだAI・データサイエンスに関して総まとめを行い、最終課題に取り組む	総まとめの内容と最終課題についてまとめ、今後の学修に活用する

到達目標と学習成果

①知識レベル	AIの概要と現状を説明できる データサイエンスの概要と現状を説明できる
②能力レベル	AIの新たな活用方法を検討できる データの適切な表現方法を選定できる

C-PLATS (Level)到達基準

コミュニケーション		プレゼンテーション		リーダーシップ		行動力	
創造力	2	計画力	1	論理的思考力	2	分析力	2
チームワーク力		社会的責任	3				

成績評価の基準と方法	この科目の評価は、講義内容に関する毎回の小テストと課題の結果で評価する。  小テストの合計: 50% 中間課題: 20% 期末課題: 30%  60%以上をD、70%以上をC、80%以上をB、90%以上をAとする。
教科書	とくになし（教員が作成した資料を適宜配布する）
参考図書	講義中に必要に応じてする
授業に関する質問等の方法	履修前はメールにて質問や相談を受け付ける。 履修確定後は主にMicrosoft Teamsのチャットを用いる。
備考	

開講年度	2022	開講学期	春学期	
科目コード	ZA0007	授業コード	40068	
科目名	情報活用 I	開講曜日・時限	金曜1限	
担当教員名【代表】	中崎 修一 (Shuichi Nakazaki)			
担当教員				
授業形態	演習			
単位数	1単位 (H27年度以前入学生 2単位)			
メジャー名	-			
授業の目的	<p>本学の情報教育環境やネットワーク環境 (OCNET) について理解し、el-Campus、大手前Gmail、Microsoft Teams/OneDriveなどをスムーズに使用できるようになることを目的とする。また、PC操作の基本である『タイピング』の速度を向上させること、『Microsoft Word』、『Microsoft Excel』、『Microsoft PowerPoint』の基本操作を身に付けることなどを目的とする。</p>			
授業の内容				
①能力開発メソッド	繰り返し学習, 強化学習, 目標設定			
②課題レポート等	ほぼすべての回で、授業で習った知識を基にした技術習得を目的とした課題を出題する。			
③授業概要	<p>本授業では、「本学のPC環境やネットワーク環境 (OCNET) についての説明, および操作」, 「タイピング速度測定」, 「Word基本操作学習」, 「Excel基本操作学習」, 「PowerPoint基本操作学習」などを行う。また、成績評価対象となる試験や課題作成を行う。授業方法として、各自所有のパソコンを持参することを前提とする。</p>			
授業時間外学習	ほとんどの学生にとって、単位習得のためには授業時間外の学習や課題作成がとても重要となります。「単位習得」, 「タイピング速度向上」, 「情報リテラシーの修得」などを目指して、自分自身の力量と相談しながら自分自身をコントロールしてみてください。			
授業計画				
	目的	主題	概要	授業時間外学習
01	知識／能力	ガイダンス OCNET利用案内	本授業の目的や成績評価方法などについて PCの取り扱いについて セキュリティと情報モラル (1)	OCNET利用ガイドを読む
02	知識／能力	ファイル操作の基本 タッチタイピング	フォルダとファイルの管理 OneDriveの利用 タッチタイピング セキュリティと情報モラル (2)	ファイル操作に関する課題 タッチ他ピング練習
03	知識／能力	電子メール Microsoft Teams	電子メール (送受信・署名作成) Microsoft Teams (ビデオ会議を含む) Microsoft OneNote	メールの送受信に関する課題 Microsoft Teamsを利用する課題
04	知識／能力	Microsoft Word (1) 入力、書式	文書入力、書式の設定(フォントの色やサイズの変更、インデント、タブ、均等割り付けなど)	文書作成課題 (テキスト掲載課題)
05	知識／能力	Microsoft Word (2) 表、罫線、図	表作成、各種図の取り扱い、ページ罫線など	文書作成課題 (テキスト掲載課題)
06	知識／能力	Microsoft Word (3) ページ体裁	ヘッダー・フッター、箇条書き、段落番号など	Microsoft Word まとめ課題 (必須課題)
07	知識／能力	Microsoft PowerPoint (1)	プレゼンテーションの基礎 スライド作成 (1)	スライド作成課題 (テキスト掲載課題)
08	知識／能力	Microsoft PowerPoint (2)	スライド作成 (2) アニメーション、印刷、スライドショー	Microsoft PowerPoint まとめ課題 (必須課題)
09	知識／能力	Microsoft Excel (1)	基本操作説明	表計算課題 (テキスト掲載課題)

	能力	基本操作	入力、表の作成	
10	知識／能力	Microsoft Excel (2) 数式、セル参照	数式入力、相対参照・絶対参照など	表計算課題（テキスト掲載課題）
11	知識／能力	Microsoft Excel (3) 関数	前2回の復習 関数の利用	表計算課題（テキスト掲載課題）
12	知識／能力	Microsoft Excel (4) グラフ作成	グラフ作成	Microsoft Excel まとめ課題（必須課題）
13	知識／能力	応用練習	Microsoft WordとExcelの連携 差し込み印刷 情報活用IIの履修に向けての説明	Microsoft WordとExcelの両方を活用する課題
14	知識／能力	データ・リテラシー	AI・データの取り扱いについて 動画の収録・編集 その他、PC関連知識	データ・リテラシーに関する課題
15	知識／能力	まとめ	Microsoft Word, Excel, PowerPoint まとめ まとめ試験 入力速度試験	ふりかえり課題

到達目標と学習成果

①知識レベル	OCNETの利用方法の習得 Microsoft Wordの基本操作習得 Microsoft Excelの基本操作習得 Microsoft PowerPointの基本操作習得 データ・リテラシーの基本習得
②能力レベル	Word, Excel, PowerPointの修得を基本とした情報リテラシー能力の向上 パソコンを活用し、目的の達成を目指す

C-PLATS (Level)到達基準

コミュニケーション		プレゼンテーション		リサーチ力		行動力	2
創造力		計画力	1	論理的思考力		分析力	
チームワーク力		社会的責任	1				

成績評価の基準と方法	この授業の評価は、毎回の授業時に指示する授業課題、3回行う大課題、および試験の結果で評価する。 おおまかな評価基準は次の通りだが、試験や課題の評価点によって調整される。 A評価：各回の授業課題10割、大課題完成、試験8割 B評価：各回の授業課題8割、大課題完成、試験7割 C評価：各回の授業課題6割、大課題完成、試験5割 D評価：各回の授業課題6割未満、大課題遅刻提出、試験5割未満 F評価：D評価に満たないもの
------------	--

教科書	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応 著者／制作 noa出版 発行所 株式会社ワークアカデミー ISBN978-4-908434-35-8 定価 本体1,525+税
-----	---

参考図書	参考書は授業時に適宜知らせますが、Microsoft Windows11/10、Office365の書籍やインターネットなどで各自勉強してください。
------	--

授業に関する質問等の方法	担当教員にメールまたはMicrosoft Teams等で連絡するか、学習支援センターで質問してください。
--------------	--

備考	上記授業計画には明記していませんが、学生の状況を見ながら課題を与えたり復習をしたり、授業内容を変更する場合があります。
----	---



開講年度	2022	開講学期	秋学期
COURSE CODE 科目コード	RBD104	CLASS CODE 授業コード	85008
COURSE TITLE 科目名	情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）（Aクラス）（Utilization of InformationⅡ）	開講曜日・時限	火曜3限
SUBJECT TEACHER 【REPRESENTATIVE】担当教員名【代表】	河本 順子		
SUBJECT TEACHER 担当教員			
授業形態	演習		
単位数	1単位		
MAJOR メジャー名			

COURSE OBJECTIVES 授業の目的	<p>The objective of the course is to understand and perform statistical procedures and techniques effectively, using Excel.</p> <p>Students will learn basic statistical procedures, important for the study of the nursing profession, through utilization of Excel.</p> <p>看護について今後学んでいく上で重要となる統計処理について、Excelを利用して基本を学ぶ。Excelを用いて効率的に統計処理を行う手法について理解することを目標とする。</p>
----------------------------	---

COURSE DESCRIPTION 授業の内容

①COMPETENCE DEVELOPMENT METHOD 能力開発メソッド	<p>Study by repetition</p> <p>繰り返し学習</p>
---	--

②ASSIGNMENTS 課題レポート等	<p>In almost every class you will be given assignments to do that will require application of knowledge and methods learned in class.</p> <p>ほぼ全ての回で、授業で習得した知識や技術を使う課題を出題する。</p>
-------------------------	--

③COURSE OUTLINE 授業概要	<p>You will learn the basics of processing statistical data using Excel and R, and applying analysis methods using these tools.</p> <p>本授業では、Excelによる統計処理技術の基礎を学習し、それらの技術を活かした分析法の基礎を学ぶ。</p>
-------------------------	--

AFTER-CLASS HOUR LEARNING 授業時間外学習	<p>Review of lessons is critical to insure that you earn credit for the course. If you have trouble understanding a formula or anything else in the lessons, please do as much reviewing as you require.</p> <p>単位修得のために復習が非常に重要です。数式の理解など、授業で躓いたところがあれば、各自しっかり復習してください。</p>
-----------------------------------	--

COURSE SCHEDULE 授業計画

	OBJECTIVES 目的	TOPICS 主題	OUTLINE 概要	AFTER-CLASS HOUR LEARNING 授業時間外学習
01	Knowledge/abilities 知識/能力	Class guidance How to create a data file 授業ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>Overview of statistics in the field of health</li> <li>Types of statistical data</li> <li>Health statistics indicators</li> <li>保健・健康分野における統計学の概要</li> </ul>	<p>Report summarizing statistics to be learned</p> <p>学習する統計についてまとめたレポート作成</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>統計データの種類</li> <li>健康に関する統計の指標</li> </ul>	
02	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Dataset creation using Excel</p> <p>Excelを使ったデータセット作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Enter survey data</li> <li>Conversion of values (IF function)</li> <li>Category integration (IF function)</li> <li>Extract data</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートデータの入力</li> <li>値の変換 (IF関数)</li> <li>カテゴリの統合 (IF関数)</li> <li>データの抽出</li> </ul>	<p>Create a dataset file according to the instructions</p> <p>指示にしたがってデータセットのファイルを作成</p>
03	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Aggregation of collected data</p> <p>集めたデータの集計</p>	<p>Frequency distribution table (Pivot table)</p> <p>度数分布表 (ピボットテーブル)</p>	<p>Create frequency distribution table from given data</p> <p>与えたデータから度数分布表の作成</p>
04	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Summary of collected data : Quantitative data</p> <p>集めたデータの概要 : 量的データ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Basic statistics</li> <li>Typical value (average · Median · Mode)</li> <li>Degree of application (dispersion · standard deviation)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本統計量</li> <li>代表値 (平均 · 中央値 · 最頻値)</li> <li>散布度 (分散 · 標準偏差)</li> </ul>	<p>Calculate basic statistics</p> <p>基本統計量の計算</p>
05	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Statistics graph basics</p> <p>統計グラフの基本</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Box plot</li> <li>Histogram</li> <li>Scatter plot</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>箱ひげ図</li> <li>ヒストグラム</li> <li>散布図</li> </ul>	<p>Create specified graph from given data</p> <p>与えたデータから指定グラフの作成</p>
06	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Hypothesis testing</p> <p>仮説検定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Populations and specimens</li> <li>Section estimation</li> <li>Significance level</li> <li>P value</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>母集団と標本</li> <li>区間推定</li> <li>有意水準</li> <li>P値</li> </ul>	<p>Create a report summarizing the hypothesis test</p> <p>仮説検定についてまとめたレポート作成</p>
07	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Relationship between two variables : Quantitative data</p> <p>二変数の関係 : 量的データ</p>	<p>Correlation (CORREL function)</p> <p>相関 (CORREL関数)</p>	<p>Find correlation between two variables using given data</p> <p>与えたデータを使って二変数の相関を調べる</p>
08	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Relationship between two variables : Quantitative data</p> <p>二変数の関係 : 量的データ</p>	<p>t test (T.TEST function)</p> <p>t検定 (T.TEST関数)</p>	<p>Perform t-test using given data</p> <p>与えたデータを使ってt検定の実施</p>
09	<p>Knowledge/abilities</p> <p>知識/能力</p>	<p>Report creation with W</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Page layout (Section break)</li> </ul>	<p>Prepare for report creation as instructed</p>

	Knowledge/Ability 知識/能力	Report creation with Word	<ul style="list-style-type: none"> <li>Outline function</li> <li>Style function</li> <li>Page layout (section break)</li> <li>Outline function</li> <li>Style function</li> </ul>	<p>Instructional preparation for report creation</p>
10	Knowledge/Ability 知識/能力	Report creation with Word	<ul style="list-style-type: none"> <li>Footnote</li> <li>Header · Footer</li> <li>Page number</li> <li>Literature citation</li> <li>Footnote</li> <li>Header · Footer</li> <li>Page number</li> <li>Literature citation</li> </ul>	<p>Create Word file according to instructions</p> <p>Instructional Word file creation</p>
11	Knowledge/Ability 知識/能力	Report creation with Word	<ul style="list-style-type: none"> <li>Correlation coefficients</li> <li>Creating a table of contents</li> <li>Table creation</li> <li>Table of contents creation</li> </ul>	<p>Exercises and problems in the text</p> <p>Exercise handouts</p> <p>Instructional Word file creation</p>
12	Knowledge/Ability 知識/能力	Creating presentation materials using PowerPoint	<ul style="list-style-type: none"> <li>Import outline</li> <li>Working with slides</li> <li>Outline import</li> <li>Slide operation</li> </ul>	<p>Think about the presentation theme</p> <p>Consider the presentation theme</p>
13	Knowledge/Ability 知識/能力	Creating presentation materials using PowerPoint	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reuse slides</li> <li>Application of animation</li> <li>Slide reuse</li> <li>Animation application</li> </ul>	<p>Create slides using PowerPoint</p> <p>PowerPoint slide creation</p>
14	Knowledge/Ability 知識/能力	Practicing presentations using PowerPoint	<p>Group announcement</p> <p>Group announcement</p>	<p>Practice of presentation</p> <p>Presentation practice</p>
15	Knowledge/Ability 知識/能力	Summary of report creation using Office software	<ul style="list-style-type: none"> <li>Final test</li> <li>Summing up and review</li> <li>Summary test</li> <li>Summary and review</li> </ul>	

Course goals/learning effect 到達目標と学習成果

①Knowledge level 知識レベル	Learn to use Excel for statistical analysis Excelによる統計処理技術の習得
②Ability level 能力レベル	Learn to use Excel for statistical analysis Excelによる統計処理技術の習得

C-PLATS (Level)到達基準							
Communication コミュニケーション		Presentation プレゼンテーション		Leadership リーダーシップ		Ability to act 行動力	
Creativity 創造力		Planning ability 計画力	1	Theoretical thinking 論理的思考力	1	Analytical ability 分析力	1
Teamwork チームワーク		Social responsibility 社会的責任					
Grading policy 成績評価の基準と方法	<p>Your grade will be decided by the results of take-home assignments given at every class and the final test.</p> <p>A: 100% on assignments , 80% on final test  B: 80% on assignments , 70% on final test  C: 60% on assignments , 50% on final test  D: Below 60% on assignments, below 50% on final test  F: Doesn't satisfy requirements for D</p> <p>この授業の評価は、毎回の授業時に指示する授業課題（持ち帰り課題）、およびまとめ試験の結果で評価する。</p> <p>A評価：各回の授業課題10割、試験8割  B評価：各回の授業課題8割、試験7割  C評価：各回の授業課題6割、試験5割  D評価：各回の授業課題6割未満、試験5割未満  F評価：D評価に満たないもの</p>						
Textbooks 教科書	<p>ていねいな保健統計学  著者 白戸亮吉, 鈴木研太  出版社 羊土社  ISBN 978-4-7581-0972-7  定価：2,000円＋税</p>						
Reference books 参考図書							
Class related questions 授業に関する質問等の方法	<p>Please contact the course instructor by email.  担当教員までメールで連絡のこと</p>						
Note 備考	<p>We will proceed according to the lesson plan, but will give assignments and move back or forwards as appropriate to the pace of student understanding.  授業計画に沿って進めますが、学生の理解度に応じて課題を与えたり授業内容を前後させたりする場合があります。</p>						

## 1. 総合科目

### 国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部、健康栄養学部

#### (1) ベーシック科目

「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」は、読み書き・プレゼンテーションなど、本学で学ぶすべての学生が最低限身につける能力と、広く一般から認められる「就業力」を育成するための授業科目です。その他の科目も、専攻への導入とは異なり、各分野における学修活動を通して「大学での学び方」を身につけるための授業科目として位置づけている授業科目です。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
キャリアデザインⅠ	演習	2	100	必修科目
キャリアデザインⅡ	演習	2	100	必修科目（「キャリアデザインⅠ」の単位を修得していること。）
キャリアデザインⅢ	演習	2	200	必修科目（「キャリアデザインⅡ」の単位を修得していること。）
キャリアデザインⅣ	演習	2	200	必修科目（「キャリアデザインⅢ」の単位を修得していること。）
哲学	講義	2	100	
史学	講義	2	100	
数学 <b>e</b>	講義	2	100	
生命科学 <b>e</b>	講義	2	100	
必修単位数		8		

備考欄の（ ）内は、先修条件を示す。

必修科目について、特に必要があると認める場合には、履修を免除することがある。（「授業科目、履修方法等に関する規程」参照）

授業科目名欄に、**e**の表示のある科目は、「eラーニング授業」を示す。

#### (2) 外国語科目

英語をはじめとして、外国語コミュニケーションスキルを身につける授業科目で、基礎レベルの科目のみが設置されています。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語及び韓国語については、国際文化コースの科目に続いており、それ以上のレベルの自主的な学修に対しては、各種技能審査（検定試験）における成果に基づいて単位を与えます。また、LEO科目とは、ネイティブスピーカーの教員がレベル別に英語で行う授業科目です。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
英語Ⅰ	演習	1	100	必修科目※注1
英語Ⅱ	演習	1	100	（「英語Ⅰ」の単位を修得していること。）
ドイツ語Ⅰ	演習	1	100	
ドイツ語Ⅱ	演習	1	100	（「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得していること。）
フランス語Ⅰ	演習	1	100	
フランス語Ⅱ	演習	1	100	（「フランス語Ⅰ」の単位を修得していること。）
スペイン語Ⅰ	演習	1	100	
スペイン語Ⅱ	演習	1	100	（「スペイン語Ⅰ」の単位を修得していること。）
中国語Ⅰ	演習	1	100	

備考欄の（ ）内は、先修条件を示す。

（次のページに続く）

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
中国語Ⅱ	演習	1	100	(「中国語Ⅰ」の単位を修得していること。)
韓国語Ⅰ	演習	1	100	
韓国語Ⅱ	演習	1	100	(「韓国語Ⅰ」の単位を修得していること。)
Basic CommunicationⅠ	演習	1	100	LEO科目
Basic CommunicationⅡ	演習	1	100	LEO科目
Listening & SpeakingⅠ	演習	1	100	LEO科目
Listening & SpeakingⅡ	演習	1	100	LEO科目
Basic ReadingⅠ	演習	1	100	LEO科目
Basic ReadingⅡ	演習	1	100	LEO科目
Basic WritingⅠ	演習	1	100	LEO科目
Basic WritingⅡ	演習	1	100	LEO科目
GrammarⅠ	演習	1	100	LEO科目
GrammarⅡ	演習	1	100	LEO科目
Academic English StudiesⅠ	演習	1	100	
Academic English StudiesⅡ	演習	1	100	
必修単位数		1		

備考欄の( )内は、先修条件を示す。

※注1 国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部に所属する外国人留学生は「英語Ⅰ」の修得は不要。

### 【外国人留学生のための日本語科目】

国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部に所属する外国人留学生のみが履修をする科目です。以下の科目の中から、必修及び選択必修を含めて6単位以上の修得が必要です。選択必修科目については、1年次の必修科目内で指示を受けた科目を履修し、修得してください。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
日本語総合AⅠ	演習	1	100	必修科目
日本語総合AⅡ	演習	1	100	必修科目
日本語総合BⅠ	演習	1	100	必修科目
日本語総合BⅡ	演習	1	100	必修科目
日本語会話(中級)Ⅰ	演習	1	200	2単位以上選択必修 「日本語総合AⅡ」「日本語総合BⅡ」の授業で指定を受けた科目の修得が必要。
日本語会話(中級)Ⅱ	演習	1	200	
日本語会話(上級)Ⅰ	演習	1	300	
日本語会話(上級)Ⅱ	演習	1	300	
日本語読解(中級)Ⅰ	演習	1	200	
日本語読解(中級)Ⅱ	演習	1	200	
日本語読解(上級)Ⅰ	演習	1	300	
日本語読解(上級)Ⅱ	演習	1	300	
日本語作文(中級)Ⅰ	演習	1	200	
日本語作文(中級)Ⅱ	演習	1	200	
日本語作文(上級)Ⅰ	演習	1	300	
日本語作文(上級)Ⅱ	演習	1	300	

(次のページに続く)

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
日本語語彙・文法Ⅰ	演習	1	100	
日本語語彙・文法Ⅱ	演習	1	100	
日本語聴解・会話Ⅰ	演習	1	100	
日本語聴解・会話Ⅱ	演習	1	100	
Basic Japanese Conversation	演習	1	100	交換留学生等のみ履修可
必修単位数		6		

### (3) 情報機器の活用とプレゼンテーション科目

社会に出るために必要な情報機器の操作と、プレゼンテーション能力をより高めるための授業科目です。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
情報活用Ⅰ	演習	1	100	必修科目
情報活用Ⅱ	演習	1	100	
表計算演習	演習	2	200	
A I・データサイエンスの扉 <b>オ</b>	講義	2	100	
情報機器プレゼンテーション <b>e</b>	講義	2	100	
プレゼンテーション概論 <b>e</b>	講義	2	100	
プレゼンテーション演習基礎	演習	2	100	
日本語表現法	講義	2	100	
日本語プレゼンテーション	講義	2	200	
必修単位数		1		

授業科目名欄に、**オ**の表示のある科目は、「オンデマンド授業」を、**e**の表示のある科目は、「eラーニング授業」を示す。

## (4) スポーツ・健康科目

講義科目である「保健体育」と、スポーツ実技を中心とする授業科目があります。特に後者は、競技や体力増強を図るための科目だけでなく、心身をリフレッシュする科目や、運動が苦手な学生のための科目も設置されています。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
保健体育	講義	2	100	
バレーボール	実技	1	100	
バスケットボール	実技	1	100	
バドミントン	実技	1	100	
フットサル	実技	1	100	
軽スポーツ	実技	1	100	
レクリエーション&スポーツ	実技	1	100	
フィットネス&スポーツ	実技	1	100	
コミュニケーション・スポーツ	実技	1	100	
ダンス	実技	1	100	
ヨガ&ピラティス実習	実技	1	100	
健康ボディケア実習	実技	1	100	
ボディワーク&コミュニケーション実習	実技	1	100	
必修単位数		0		

年度により開講されない科目がある。  
教職課程履修者は、上表より2単位以上の修得が必要。

## (5) キャリアアップ科目

将来の進路を意識し、社会に出るために必要な知識や、就業力をより高めるための体験をとまなう授業科目です。選抜された学生だけが履修できる科目もあります。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
PBL特別演習Ⅰ	演習	4	100	
PBL特別演習Ⅱ	演習	4	200	
PBL特別演習Ⅲ	演習	4	300	
PBL特別演習Ⅳ	演習	4	400	
Global Career Seminar A100	演習	2	100	
Global Career Seminar B200	演習	2	200	
Global Career Seminar C300	演習	2	300	
Global Career Seminar D400	演習	2	400	
留学生のためのビジネスマナー・作文	演習	2	300	国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部外国人留学生対象
地域貢献PBL	複 演習	2	200	
インターンシップ	複 演習	2	200	
サービスラーニング	演習	2	300	
職業選択演習	複 演習	2	300	
必修単位数		0		

授業科目名欄に、**複**の表示のある科目は、年度により内容の違う授業が開講され、複数回の修得が可能。内容の違いは授業科目名の後ろに【 】で示される。



**国際看護学部**

**(I) 基礎分野**

多様な人々の価値観や文化の違いを受容し行動するグローバル人材として国際化する社会で活躍するための基盤的能力を身に付けるための授業科目です。

具体的には、以下の科目を開講します。

- ・ 必要な情報を自ら収集し、ものごとの本質について深く考える能力を身に付ける科目
- ・ 自分の考えを外国語を含む言葉で表現する資質を養う科目
- ・ 医療・健康・病気を国家や民族における文化の多様性や、地域に暮らす人々の多様性に着目して学ぶ科目
- ・ 看護学・医学の基礎知識を学ぶために必要となる化学や生物学について学ぶ科目
- ・ 情報機器の基本操作や看護研究に必要な統計の知識を学ぶ科目
- ・ 自身の健康を維持するために必要なストレスコーピングや身体のケアについて学ぶ科目

科目区分	授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
リベラルアーツ	キャリアプランニングⅠ	演習	1	100	必修科目
	キャリアプランニングⅡ	演習	1	200	必修科目
	生命・医療倫理	講義	1	100	必修科目
	哲学入門	講義	1	100	* } *の5科目5単位から3単位以上を修得すること。 * } * }
	法学の基礎	講義	1	100	
	国際社会学	講義	1	400	
グローバル社会と言葉	Practical English I for Nurses	演習	1	100	必修科目
	Practical English II for Nurses	演習	1	100	必修科目
	Academic Writing & Debate	演習	1	300	必修科目
	Student-friendly English for nursing	演習	1	100	
	English for healthcare careers	演習	1	200	
	看護のための中国語	演習	1	100	} 「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位を修得すること。
	看護のための韓国語	演習	1	100	
	Basic Communication in Global Context	演習	1	200	} 「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」いずれか1単位を修得すること。
Listening & Speaking in a Global Society	演習	1	200		
社会と文化	大阪・神戸における多様な共生社会と文化	講義	1	100	必修科目
	医療人類学	講義	2	100	必修科目
	情報倫理	講義	1	100	* } *の5科目5単位から3単位以上を修得すること。 * }
	国際政治・経済	講義	1	100	
科学と情報	化学	講義	2	100	必修科目
	生物学・細胞生物学	講義	2	100	必修科目
	情報活用Ⅰ	演習	1	100	必修科目
	情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)	演習	1	100	必修科目
スポーツと健康	スポーツ生理学	実技講義	1	100	必修科目
	スポーツと健康	講義実技	1	100	必修科目
必修単位数			22		

# 教育連絡協議会設置規程

(趣旨)

第1条 大手前大学の教育活動において、関係部局及び委員会並びに教職員相互の連携を密にし、もって教育運営事務を能率的に遂行するための施策を協議するため、各種の教育連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の設置、廃止及び事務)

第2条 各協議会の設置及び廃止は、教学運営評議会の議を経て学長が定める。

2 前項の協議会として置かれるもの及び各協議会の事務を取り扱う組織は、別表に掲げる。

(組織及び委員の任期)

第3条 各協議会を組織する委員については、学長が定める。

2 前項の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合に補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長及びその職務)

第4条 各協議会に、議長1人を置く。

2 議長は、学長が委嘱する。

3 議長は、協議会を招集し、協議を進行する。

4 協議会には、副議長を置くことができる。

5 副議長は、議長に事故があるとき若しくは欠けたとき又は議長から命じられたとき、議長の職務を代行する。

(協議事項)

第5条 各協議会の協議事項については、学長が定める。

2 協議会は、前項の事項について協議し、必要な事項について学長に提案する。

(関係者の出席)

第6条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を協議会に出席させ、協議事項に関し、これに説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

2 学長及び副学長は、協議会に出席することができる。

(協議結果の報告、学長による指示等)

第7条 議長は、学長から協議案件が付託されたときは、協議の経過及び結果について、学長に報告しなければならない。

2 学長は、協議会の運営並びに協議について、必要な指示及び指揮をすることができる。

(記録)

第8条 協議会の協議内容については、記録を作成し、当該協議会の事務を取り扱う組織がこれを保管する。

(内規)

第9条 協議会は、協議会の招集時期及び定足数、委員の役割分担、一定の職務を一部の委員に委任する規定その他必要な事項について、内規を定めることができる。

2 前項の内規を定めたときは、議長は、速やかに学長に届け出なければならない。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、教学運営評議会で決する。

別表（第2条、第8条関係）

連絡協議会	事務を取り扱う組織
通信教育課程連絡協議会	通信教育部事務室

コア教育連絡協議会	教学運営室
留学生対応連絡協議会	学生課

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 教職課程連絡協議会規程（平成25年6月11日）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

## 大手前大学自己点検・評価委員会規程

(趣旨)

第1条 大手前大学（以下「本学」という。）に、本学の教育水準の向上を図り、かつ、本学の建学の精神及び使命、目標を達成するため、大手前大学自己点検・評価委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

(委員会の業務)

第2条 委員会は、次の業務を行う。

- (1) 学校教育法第109条第1項に定める点検及び評価に関し必要なこと。
- (2) 学校教育法第109条第2項に定める認証評価に関し必要なこと。
- (3) 認証評価機関の評価を受け、改善に必要なこと。
- (4) その他、点検・評価に関し必要なこと。

2 委員会は、前項の点検・評価の結果を踏まえ、改善、改革、明確化すべき事項を整理し、これらの改革案を策定し、その実施について理事長に提言するものとする。

(組織)

第3条 委員会は次の各号に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 大学院研究科長
- (5) 法人本部長
- (6) 事務局長
- (7) その他委員会が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。ただし、必要と認めた場合は、学長が指名することができる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。

(部会)

第5条 委員会に、具体の業務を分担させるため、次の部会を置く。

- (1) 基本理念部会
- (2) 教育部会
- (3) 研究部会
- (4) 学生支援部会
- (5) 社会連携部会
- (6) 管理運営部会
- (7) 通信教育部会
- (8) 国際交流部会

(部会長及び部会委員)

第6条 部会に部会長及び部会委員を置く。

2 部会長及び部会委員の選任並びに任期の定めは本委員会において行う。

(専門委員会)

第7条 部会の下に、必要に応じ専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会については、別に定める。

(雑則)

第8条 この規程に定めるほか、必要な事項は委員会が定める。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教学運営評議会の議を経て行うものとする。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成20年7月8日から施行する。

附 則

この改正は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成30年8月1日から施行する。

附 則

この改正は、2021年5月1日から施行する。

# 大手前大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

## プログラムのねらい

社会のニーズに応え、統計的な考え方やデータの読み解き方、さらには人工知能をはじめとする先端デジタル技術を活用する力など、デジタルリテラシーを身につけた人材を育成する。

## プログラムの学修成果（身につけられる力）

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

## プログラム（リテラシーレベル）の修了要件

<国際日本学部・建築&芸術学部・現代社会学部・健康栄養学部>

- ・「情報活用Ⅰ」「AI・データサイエンスの扉」をすべて修得すること。

<国際看護学部>

- ・「情報活用Ⅰ」「情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）」をすべて修得すること。

## 組織・体制

役割	機関
プログラムの運営・改善	コア教育連絡協議会
プログラムの自己点検・評価	自己点検・評価委員会

## 学びのステップ

発展

**Develop** スキルを実践に活用する

各々の専門領域の研究や学修においてAIやデータの利活用を試みる

応用

**How** 利活用スキルを身につける

「教養としてのAI・データ活用（実践演習）」  
「教養としてのAI・データ活用」

基礎

**Why・What** 基礎知識を身につける

「AI・データサイエンスの扉」  
「情報活用Ⅰ」「情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）」